



RAKUWA  
lecture of health

第117回 らくわ健康教室

2012年9月27日



## グループホームでいきいきと

～ 共に支え合う幼老統合ケア ～

介護支援部 介護事業部 課長 えんどう えみこ 遠藤 英三子



子どもたちのために、未来へ…

洛和会ヘルスケアシステム<sup>®</sup>

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院  
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院



RAKUWA  
lecture of health

第117回 らくわ健康教室 2012年9月27日

# グループホームでいきいきと

～ 共に支え合う幼老統合ケア ～

## グループホームとは？

グループホームは通称であり、正式には「認知症対応型共同生活介護」と呼びます。（※本稿ではわかりやすく、以下「グループホーム」とします）

グループホームは1980（昭和55）年にスウェーデンで始まり、90年代初めにわが国においても取り組みが始まり、その後、厚生労働省のモデル事業となり、効果が認められたことで介護保険サービスメニューの一つとなりました。さらに、介護保険制度導入が起爆剤となり、グループホームが急増することになりました。

### 入所条件

- 1 介護が必要な認知症と診断された方
- 2 要支援2、要介護1～要介護5の方
- 3 施設の位置する市町村の被保険者



### 内 容

- 1 5～9人の少人数の利用者さまとスタッフで共同生活を行います。
- 2 家庭的な環境と地域住民との交流のもと、利用者さまが有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるようにします。

## グループホームが必要な社会的背景

- 認知症高齢者の増加
- グループホームの整備急務
- 厚生労働省が主体となり、日常生活圏域（中学校区ごと）に一つのグループホームを整備する計画が進行中



## グループホームの利用料

● 介護保険適用分（要支援2、要介護1～要介護5） ※京都市地域単価	27,182～30,379円
● 基本単価	25,018～28,215円
● 医療連携体制加算	1,223円（全介護度共通）
● 初期加算	941円（全介護度共通）
● 家賃	40,000～100,000円
● 生活費 （食費・水道光熱費・運営費）	78,000～107,000円
合計	約15.5万～23.6万円

…… 平均で約17万～18万円



### グループホームのリビングは？

- 家庭的な雰囲気
- お互いが距離をもって過ごせる場所
- ちょっとした空間を生かした居場所づくり
- 共有空間であっても利用者さまが、いつでも日用品が使える環境



### 個性ある居室

- なじみのある家具や生活用品、装飾品などを居室に持ち込み、その人らしく過ごせる
- ADL(日常生活動作)に合わせて転倒などの事故が起きないような環境



グループホームは外観やリビングに家族的で気軽に入れる雰囲気をつくる一方、居室はプライバシーが確保された環境(個室)を提供できるよう設計されています。

## 認知症ケアとは？



### 人としての関わりを大切に

- 相手を尊重する
- 相手を敬う
- 相手に感謝する
- 認知症よりその人自身を理解する

### 身体に残る記憶を大切に

- 料理など習慣として身に付けたもの
- 趣味など得意なこと
- あいさつや礼儀作法

### 五感への働きかけを大切に

(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)

- 季節の草花など
- 家事の音など
- 家事の匂いなど
- 食事の味
- 手先の感覚など



### スタッフが心掛けていること

一緒に  
ゆっくり 楽しく



- スタッフの穏やかな優しい対応
- じっくりと相手のペースに合わせる
- 一人ひとりのできることを探り、その人に合った活躍の場面を暮らしのなかでつくり一緒に行う人としての関わり

利用者さまが介護される一方的な立場ではなく、利用者さまの得意分野で力を発揮してもらい、「お互いさま」という気持ちや、「感謝する」という関係性を築き、共に支え、共に生きることを実感してもらいます。また、行事での外出や旅行などの機会を設けるとともに、ご本人が行きたい場所への支援を積極的に行い、グループホームに閉じこもらない生活を提供します。



## 幼老統合ケアとは？

- 子どもの施設と高齢者施設を合築するなど「高齢者ケアと次世代育成」を融合・連携させることにより、費用対効果やケアの質の向上、高齢者の生きがいづくりの一助とします。
- ケアの一方向的な受け手であった高齢者や子どもが、ケアの与え手にもなり、子ども、高齢者双方の福祉向上につながります。

### 世代を超えた交流が相乗効果をもたらす

#### 高齢者



- 1 無邪気な子どもたちが遊ぶ姿で昔を思い出す
- 2 高齢者の表情が豊かになる
- 3 表情が豊かになることは女性なら化粧するなど、精神、身体面で効果あり
- 4 子どもとの交流をきっかけに体力の回復につながることもある
- 5 和やかな気持ちになる

#### 子どもたち



- 1 子どもたちは「思いやりの気持ちが育つ」
- 2 交流を通して情操教育が自然の形で行われる
- 3 直接教えなくても、車いすの方や身体の弱い高齢者に対する配慮や理解が自然と身につく。個人差はあるが1年経過すると、どの子どもにも人と関わる力が確実に育っている

洛和会ヘルスケアシステムの「洛和グループホーム山科小山」は、下記の5つの施設と併設された、幼老統合型複合施設 洛和ウィズ山科小山の1つの施設です。

- グループホーム×2ユニット (計18室)
- 学童保育室
- 児童デイサービス室
- デイサービスセンター
- 小規模多機能サービス



行事参加、日課参加、あいさつなど「日々の関わり」を大切に運営しているこの施設では、高齢者に以下の気付きや変化が生まれました。

- 子どもたちが来ると自然と笑顔が増える
- 子どもたちと過ごすことで過去のことを思い出すなど「その人らしさ」につながった
- 利用者さまの役割がより明確になった

など

